○定款

目次

第1章　総則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第 1 条（目的）第 2 条（名称）第 3 条（経営の原則等）
第 4 条（事務所の所在地）
第2章　評議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第 5 条（評議員の定数）第 6 条（評議員の選任及び解任）
第 7 条（評議員の任期）第 8 条（評議員の報酬）
第3章　評議員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２～４
第 9 条（構成）第 10 条（権限）第 11 条（開催）第 12 条（招集）
第 13 条（議長）第 14 条（決議）第 15 条（議事録）
第4章　役員及び職員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４～５
第 16 条（役員の定数）第 17 条（役員の選任）
第 18 条（理事の職務及び権限）第 19 条（監事の職務及び権限）
第 20 条（役員の任期）第 21 条（役員の解任）
第 22 条（役員の報酬等）第 23 条（職員）
第5章　理事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５～６
第 24 条（構成）第 25 条（権限）第 26 条（招集）第 27 条（議長）
第 28 条（決議）第 29 条（議事録）
第6章　資産及び会計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６～８
第 30 条（資産の区分）第 31 条（基本財産の処分）
第 32 条（資産の管理）第 33 条（事業計画及び収支予算）
第 34 条（事業報告及び決算）第 35 条（会計年度）
第 36 条（会計処理の基準）第 37 条（臨機の措置）
第7章　公益を木庭とする事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
第 38 条（種別）
第8章　解散・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
第 39 条（解散）第 40 条（残余財産の帰属）
第9章　定款の変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
第 41 条（定款の変更）
第10章　公告の方法その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
第 42 条（公告の方法）第 43 条（施行規則）
付則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９～

社会福祉法人　翁仁会　定款

第１章　総　則

（目　的）

第１条　この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことが出来るよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

（１）第一種社会福祉事業

特別養護老人ホームの経営

（２）第二種社会福祉事業

（イ）老人デイサービス事業の経営

（ロ）老人介護支援センターの経営

（ハ）短期入所生活介護事業の経営

（ニ）介護老人保健施設の経営

（名　称）

第２条　この法人は、社会福祉法人　翁仁会という。

（経営の原則等）

第３条　この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的その経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り，もって地域福祉の推進に努めるものとする。

２　　この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

（事務所の所在地）

第４条　この法人の事務所を広島県府中市上下町深江１０４８８番地１に置く。

第２章　評議員

（評議員の定数）

第５条　この法人に評議員を９名置く。

（評議員の選任及び解任）

第６条　この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

２　　評議員選任・解任委員会は、監事２名、事務局員１名、外部委員２名の合計５名で構成する。

３　　選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての最速は、理事会において定める。

４　　選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

５　　評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員２名が出席し、かつ、外部委員の１名が賛成することを要する。

（評議員の任期）

第７条　評議員の任期は、選任後４年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

２　　評議員は、第５条に定める定数に足りないときは、任期の満了又は辞任により退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

３　　任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

（評議員の報酬等）

第８条　評議員に対して、１名あたりの各年度の総額100,000円を超えない範囲で、別途定めた役員報酬規程に従い、評議員会において算定した報酬として支給することができる。

第３章　評議員会

（構成）

第９条　評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

（権限）

第 10 条　評議員会は、次の事項について決議する。

（１） 理事及び監事の選任又は解任

（２） 理事及び監事の報酬等の額

（３） 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準

（４） 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認

（５） 定款の変更

（６） 残余財産の処分

（７） 基本財産の処分

（８） 社会福祉充実計画の承認

（９） その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開催）

第 11 条　評議員会は、定時評議員会として毎年度 6 月に 1 回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第 12 条　評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

２　　評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

３　　評議員会を招集するには、理事長は、評議員会の日の 1 週間前までに、評議員に対して、会議の日時、場所、目的である事項を記載した書面で、その通知を発しなければならない。

（議長）

第 13 条　評議員会の議長は、当該評議員会において、出席評議員の中から選出する。

（決議）

第 14 条　評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

２　　前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行わなければならない。

（１） 監事の解任

（２） 定款の変更

（３） その他の法令で定められた事項

３　　理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第 16 条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に多数留までの者を選任することとする。

４　　第１項及び第２項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることが出来る者に限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示を示したときは、評議員会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第 15 条　評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

２　　理事及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人 2 名がこれに署名し、又は記名押印する。

第４章　役員及び職員

（役員の定数）

第 16 条　この法人には、次の役員を置く。

（１）　理事　６名

（２）　監事　２名

２　　理事の内１名を理事長となる。

３　　理事長以外の理事のうち、１名を業務執行理事とする。

（役員の選任）

第 17 条　理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

２　　理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する

（理事の職務及び権限）

第 18 条　理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

２　　理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

３　　理事長及び業務執行理事は、毎年会計年度に４か月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限９

第 19 条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告

を作成する。

2　　監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の調査をすることが出来る。

（役員の任期）

第 20 条　理事又は監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する会計年度にうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2　　補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3　　理事又は監事は、第 16 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）

第 21 条　理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することが出来る。

（1）　職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

（2）　心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（役員の報酬等）

第 22 条　理事又は監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

（職員）

第 23 条　この法人に、職員を置く。

2　　この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は理事会において、前任及び解任する。

3　　施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第 5 章　理事会

（構成）

第 24 条　理事会は、全ての理事をもって構成する。

（権限）

第 25 条　理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

（１） この法人の業務執行の決定

（２） 理事の職務の執行の監督

（３） 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

（招集）

第 26 条　理事会は、理事長が招集する。

２　　理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、業務執行理事が理事長を招集する。

（議長）

第 27 条　理事会の議長は、当該理事会において、出席理事の中から選出する。

（決議）

第 28 条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

２　　前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるのものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第 29 条　理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

２　　理事会の議事録署名人は、出席した理事長及び監事が、前項の議事録に署名し又は記名押印する。

第６章　資産及び会計

（資産の区分）

第 30 条　この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の３種とする。

２　　基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

（１） 土地　別紙のとおり

（２） 建物　別紙のとおり

３　その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。
４　公益事業用財産は、第 38 条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。
５　基本財産に指定されて寄付された金品は、速やかに第２項に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

（基本財産の処分）
第 31 条　基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て府中市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、府中市長の承認は必要ない。
（１）　独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
（２）　独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸与が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資にかかる担保に限る。）

（資金の管理）
第 32 条　この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。
２　　資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

（事業計画及び収支予算）
第 33 条　この法人の事業計画及び、収支予算については、毎会計年度開始日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
２　　前項の書類については、事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）
第 34 条　この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けて上で、理事会の承認を受けなければならない。
（１）　事業報告
（２）　事業報告の付属明細書
（３）　貸借対照表
（４）　収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）

（５） 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の付属明細書
（６） 財産目録

２　前項の承認を受けた書類のうち、第１号、第３号、第４号及び第６号の書類については、定時評議員会に提出し、第１号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

３　第１項の書類のほかに、次の書類を事務所に５年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
（１） 監査報告
（２） 理事及び監事並びに評議員の名簿
（３） 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
（４） 事業の概要等を記載した書類

（会計年度）

第35条　この法人の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日をもって終わる。

（会計処理の基準）

第36条　この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規定により処理する。

（臨機の措置）

第37条　予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の３分の２以上の同意がなければならない。

第７章　公益を目的とする事業

（種　別）

第38条　この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。
（１） 居宅介護支援の事業
（２） 訪問リハビリテーションの事業

２　前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の３分の２以上の同意を得なければならない。

第８章　解散

（解　散）

第 39 条　この法人は、社会福祉法第 46 条第１項第１号及び第３号から第６号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第 40 条　解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益社団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第９章　定款の変更

（定款の変更）

第 41 条　この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、府中市長の認可（社会福祉法第 45 条の 36 項第１項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

２　　前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を府中市長に届け出なければならない。

第１０章　公告の方法その他

（公告の方法）

第 42 条　この法人の公告は、社会福祉法人翁仁会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞、又は電子公告に掲載して行う。

（施行細則）

第 43 条　この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附　則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の設立後遅滞なく、この定款に基づき、役員の選任を行うものとする。

理事長　　奥　山　昭　士
理　事　　加　納　　學
理　事　　高　橋　吉　雄
理　事　　岡　戸　　功

理　事　　平　本　浅　夫
理　事　　仙　田　邦　夫
監　事　　吉　原　勝　士
監　事　　田　辺　美　仁

附　則
この定款は、平成７年２月７日より施行する。
附　則
この定款は、平成７年１２月２６日より施行する。
附　則
この改正は、平成８年２月５日より施行する。
附　則
この定款は、平成１０年１１月１日より施行する。
附　則
この定款は、平成１１年４月１日より施行する。
附　則
この定款は、平成１１年７月８日より施行する。
附　則
この定款は、平成２０年３月２８日より施行する。
附　則
この定款は、平成２１年１月１３日より施行する。

附　則
この定款は、広島県知事の認可の日（平成 25 年 8 月 14 日）から施行する。
附　則
この定款は、府中市長の認可の日（平成 28 年 1 月 4 日）から施行する。
附　則
この定款は、府中市長の認可の日（平成 28 年 5 月 16 日）から施行する。
附　則
この定款は、平成２９年４月１日から施行する。
附　則
この定款は、府中市長の認可の日（令和元年７月９日）から施行する。
附　則
この定款は、府中市長の認可の日（令和５年１２月２２日）から施行する。